

令和4年3月17日

沼田市長 横山公一様

沼田市市民構想会議
会長 田村博史

「沼田市におけるDX推進」に係る意見・提言について

沼田市市民構想会議では、市民代表委員により住民主体の視点から、未来の沼田のまちづくりを議論し、その意見をまとめましたので、ここに提言いたします。前年度の市民構想会議では、従来の行政主導型によるまちづくりを、可能な限り住民主体のまちづくりへ転換する「主人公は私たち、地域コミュニティの再構築と拠点づくり」を主題に市民意識の改革が話し合われ提言されました。

続く今年度では「まちは市民の財産」という理解を基礎に市民意識のさらなる自覚を深めSDGsへの理解促進と市民生活に関わる価値観や暮らしの在り方を見直す住民主体の“地域自立型のまちづくり”を目指す将来像を議論しました。とりわけ、DX時代を迎えている大転換期を共通理解に50年後100年後の沼田の未来を見すえた長期的展望を、沼田市の将来像として議論を重ねました。

この議論の背景にはコロナ禍対策として導入されたワーケーションやリモートによる働き方に見られるデジタル技術の急速な社会的変化があります。未来の暮らしの在り方に深く関わるデジタル世界の技術が、人々の明日の暮らしや経済を大きく塗り替える技術革新に誰もが多くの可能性を予感し、DXと向かい合う機運が高まりました。世界と個人のあり方を大きく塗り替えるこの変化を正視し議論を進めました。

情報端末技術の利活用は、19世紀末の英国の産業革命にも比較すべき社会変化を現代の私たちに与えています。人工知能のAIやロボット技術などの高度なデジタル技術を活用する社会変化が国境を越え、地域や個人の暮らしの在り方まで急速に変えはじめました。第四次産業革命と呼ばれる知的情報革命が世界で進みこれらの変化がまちづくりや私たちの暮らしの在り方を根本から塗り替えようとしています。

こうした時代を前に沼田市のまちづくりに向けてデジタル技術のDXを市民生活にどう取り入れ市民生活の質の向上を図っていくか協議しました。同時にその議論から見えた課題は心の知能指数(EQ)を高めていく為の教育の重要性でした。幸い豊かな自然環境を抱きもつ沼田はその自然資産を心の教育に活かせることが再確認できました。DX時代を迎えここに「沼田市におけるDX推進」に係る提言をご報告します。

1 提言の背景

この数十年の間に日本は縮小均衡の経済状況に追い込まれ「引き算」社会に転じました。少子・高齢化を背景に人口減少が進みこの事実が多方面に影響を与え続けています。沼田市も出生数の減少に加え、他府県等への人口流出により人口減少が止まりません。地方都市が抱える共通課題とはいえ、今や逆にコロナ禍によって地域での暮らしが再評価され、移住の機運を促し始めています。

沼田市も、経済活性化の手掛かりを人口増対策に求め、沼田市の発展につながる様々な施策が諮られてきました。しかし人口を増やすことは至難なことと思われれます。むしろ人口減少をくい止め維持する施策と工夫のまちづくりが沼田市に求められており、そのためには将来にわたり若者にとって魅力ある活力を維持しふるさとの再評価につながるビジョンとその具体策が待たれています。

激変する社会情勢を前に、世代を超えて今や新時代への意識転換が求められています。「拡大均衡」から「縮小均衡」を前提に「量的充足」の暮らしから「質的充足」の暮らしへと、視点の転換が進みました。豊かなモノへの関心から豊かな人間性への関心の高まりへと、人々の関心と価値観が移り始めました。大量生産・大量消費への反省が循環型の生活の重要性として社会的合意になってきました。

近代科学思想を支えた重要な価値観は「延長」概念でした。この考えに基づく社会改革が、豊かな未来社会を約束するとこれまで考えられたのです。現代ではこの哲学的示唆の終焉を迎えています。「過去の成功例の延長」では成功しない時代へと変化しました。沼田の中心街区を特徴づける、歴史的建造物の整備は街の未来の宝物となります。これを核に沼田市の街の文化価値が向上するからです。

幸い沼田市は「森林文化都市宣言」をしています。森林は命を育む豊かな母胎であり、私たちが暮らしを豊かに営む土台です。森林は豊かな生態系の始源として、私たちの文化的な営みを紡ぎ出す物語を宿しています。森林を源とする豊かな暮らしの再生を現代に蘇らせるために、現代の沼田が森林資源の保全とどのようにかわり、人間性豊かな涵養と再生を物語るか問われています。

2 将来の飛躍に向けた DX の推進

* DXの推進

政府は昨年9月に世界の先進国に遅れないようデジタル庁を創設しました。これに伴い、沼田市もデジタル技術を日常生活に広く活用し市民生活の利便性を高めるまちづくりの取り組みの一つとして DX 推進を施策の柱に据え整備検討に入りました。DX 推進は原則として子どもも大人も高齢者も障がいを持つ人も“誰一人、取り残さない”推進が基本であるべきです。

人工知能のAIやロボット技術などデジタル技術の飛躍的向上によって今後は日常生活がこれまでと比較できないほど様変わりすると考えられています。私たちの暮らしを支え補助してくれる DX 技術は生活の利便性だけでなく、生活の質

そのものを豊かに向上させると考えられています。しかしデジタル活用ができない地域には、従来の支えあいを超える、新たな支えあいの工夫が求められます。

今後、DXは合理化・効率化・省力化を進める技術として社会的諸課題の解決策として利活用されていくことは明らかです。そのためこの技術の進展は私たちの生きる意味と価値をあらためて問い直す事につながります。DXの活用を進める私たちに課された大切な点は、DX活用の目的を明確にすると共に、個人情報等についてもその取扱いに関わる管理責任を明確にする措置が必須条件です。

DXの技術導入は人の温もりが必要とされる社会へと、人々の関心を導きます。DXは人にしか出来ない判断や価値づけの仕事と機器の操作に任せてよい仕事の峻別を進めます。その結果、アナログな「心の知能指数(EQ)」が社会的に評価され豊かな感受性がこれまで以上に尊重される心豊かな人材育成が求められます。沼田市を囲む自然は人を心豊かに育む環境に好適で、その活用が期待されます。

3 DXに係る具体的な提言

* 選別と特化のまちづくり

まちづくりの成功例には必ず共通点があります。街の誇るべき資産を核にしてあらゆる事実をそれに関連付け、それ以外は可能な限り「引き算」(集約)されています。本物と誰もが認める沼田の誇るべき資産を街の核に定め不動の価値へと高めるための官民の議論や検証作業が必要です。その為にもモノや仕組みやサービスの在り方など、それを支える組織の機能の点検も絶えず必要です。

従来にはない新たな取り組みには、DXの積極的活用による「見える化」を進めることが必要です。その為にも市民構想会議として根付いた市民主体のまちづくりの継続が新しい時代を生む原動力となるに違いありません。DX技術を随所に取り込み、従来にない沼田の魅力や価値を生み出す市民目線の議論は今後も継続され、その議論が繰り返し検証されていくことが望まれます。

リモートやワーケーションは仕事をする場所に制約されず仕事ができる時代の先がけとなりました。この事は都市一極集中に追従しなくてはならなかった人々に暮らしの選択肢を広げる可能性を示唆しました。未来を担う世代の人々が子育てを視野に、伸びやかな暮らしが叶う生活拠点を自然豊かな郊外地に求め転居する兆しが見られます。暮らしの質への希求が「選択と集中」を加速させています。

新たに地域住民として住まう人々と従来から住む人々の多様(ダイバーシティ)な価値観が豊かに溶け合い、SDGsの理解と共に、沼田市の共通した地域の誇りが醸成されていく機会が待たれています。誰もが新たな文化的な誇りが沼田市に生まれる機会を育て、未来につながる地域の文化遺産の継承として「沼田まつり」を手掛かりに、国内外へ広く発信していく取り組みの地域おこしが必要です。

その為には、従来ありがちなデータや数字至上主義を反映した政策立案に頼りきらない「楽しさ」や「満足感」や「達成感」を共有する地域の良さをアピール

する必要があります。DX の活用の取り組みは新しいチャレンジでもありそれに
取り組む時を迎えています。新しく住人となった人々と共に可能な限り子どもの
視点に立ち、彼らの20年後のリアルな社会に対応できるまちづくりが必要です。

*** 今後の取り組みと方向性**

個性豊かなまちづくりを進めるために郷土情報を集積しそれを活かす郷土資料
をデジタルアーカイブする取り組みが急がれます。紙の情報から映像や音声によ
るデジタル情報へと見直しを進め、同時にそれらの情報が複数言語でも聴取でき
るようにすることは多様性の受容からも必須です。魅力ある地域情報を国内外に
広く発信する取り組みは沼田市に関心を持った人々に即、提供できる広報です。

デジタル技術を存分に活用して郷土の情報発信を、衣・食・住のジャンル別に
区分して伝える工夫が、街の未来にとって不可欠です。歴史・文化・郷土の偉人
や功績の検証など、それらの情報を求める人々にとって、従来の市役所情報とは
切り離し、簡単アクセスできるホームページが必要です。編集には女性の感性を
尊重した目線による広報も、今後の魅力ある地域のアピールにつながります。

誰もが街のより良い発展を願っています。しかし政策立案の主体が行政にあり
過ぎると、住民の声が届きにくい偏りが生まれ、時には上手く行かない場合があ
ります。こうしたことからコミュニティセンターを設置するなど、市民主体のま
ちづくりを目指した取り組みが進められてきました。この流れを育て継承する手
立てとして新たな産官学の独自の取り組みが待たれます。

歴史文化的建造物を手掛かりに、誇るべき街の有形遺産を保存し後世に伝える
取り組みをはじめとして、こうした施設を大切に管理しつつそれらを新たに文化
活動の拠点として管理運用できる仕組みが待たれます。その推進には産官学に根
ざした研究機構を組織し、歴史的研究や建造物の管理を併せ行い、文化財の死蔵
に終わらせない、文化的活用を促す新しいまちづくりの運動組織が必要です。

*** 人間力を優先するDX**

人工知能のAIや各種のロボット技術が、私たちの生活を一変させると言われて
います。しかし残念なことに、人工知能のAIは物事の意味や価値づけが判断でき
ません。そのためデジタル技術を補うには人の感性が従来にも増して大切になり
ます。人間的な感覚や感情や判断の重要視は人のつながりの大切さや心に寄り添
う人間関係が新たな価値となって求められる時代の到来を予告しています。

温もりを感受できる空気感がまちづくりにも求められ豊かな感受性を受け止め
る人間力が息づくまちづくりが必要です。「もてなし心」あふれる穏やかな空気感
の醸成が市民意識として育つまちづくりが期待されています。豊かな感受性を育
て学びの力を育てる心の環境整備は市民生活に豊かさを生み出す力を育てます。
成長を後押しする学びの機会にあふれたまちづくりが一層、期待されています。

別冊「資料集」

以下の指摘は沼田市市民構想会議の席上で発言された委員からの発言要旨です。

(1) DX推進において留意すべき点

道具としてのデジタル技術がどのように使えるかではなく、未来の沼田市がどうあるべきかの議論が大切な視点です。いうまでもなくデジタル技術はあくまでも手段であり有用な道具的機能をもつ、未来の社会を創造的に構築できる電子的知能を基本にした物理的機器です。そのため、それらの特性を理解した上で適切に活用する自覚が求められており、以下のことに留意することが重要です。

*留意すべき特性

○誤った情報（フェイク・ニュース）の急拡散と思考停止の危険性

ネットワーク上では、誤った情報が検証されることなく、短時間に拡散されるため、それらの情報が集団を思考停止させて「パニック」に陥れる危険性があります。その対策と情報を検証できる市民のメディアリテラシー（メディア情報を適切に理解し活用する力）育成が必要です。

○子どもの発達に与える影響

乳幼児期におけるスマートフォンやタブレットの利用が、子どもの成長期における発達に悪い影響を与える可能性が高いことが指摘されています。

ICT 機器の子どもへの影響を客観的に評価し、子どもの発達段階に応じた適切な時期に、適切な ICT 機器を適切な方法で活用する配慮が必要です。

○長期的情報保存の脆弱性

デジタルアーカイブ情報は保存占有面積が小さく検索も容易のため短期的利用は便利ですが、しかし、読み出す電子機器が数十年単位で必要情報が消失する可能性が高いことが知られています。

貴重な情報が、タイムカプセルから取り出されてもそれらの記録が読み出せない事態が発生する危険性があります。歴史や文化を後世に残すには、安全対策として、デジタル記録と併用して、紙やマイクロフィルムなど、光学的保存を選択する必要があります。

○災害に対する脆弱性

電子機器は電源喪失や過電流など、様々な原因で機能を停止することが知られています。災害発生時に必要な機能が機能しなくなる可能性が高いため、電子機器の停止が、命に関わる事態につながる非常時の措置が求められます。地震や台風、竜巻や雷被害などのほかに、太陽フレアの発生による宇宙放射線によるデジタル機器破損の可能性についても配慮しそれらの対策が必要です。

(2) 具体的取組の参考

沼田が持つ豊富な資源を活かした沼田固有の物語を創造することが、魅力的なまちづくりにつながります。沼田が持つ何処にも負けない価値を再発見し、継承していく取り組みとして、郷土研究を市民中心に進める取り組みが求められます。豊かな郷土の情報を市民が分かち合い誇りとして共有化し街のブランドイメージを育て発信することが大切です。沼田に関心を抱いてもらう取り組みが重要です。

子どもから高齢者まで、世代を超えて住民が学び続けられる環境整備は地域の持続的発展を支えます。豊かな自然に学ぶと共に日々更新されていく最新のデジタル技術を活用する学びを主体的に取り組める社会教育の拡大は地域育成の基礎条件です。こころ豊かな優しさを感じできる子どもが育つ教育環境を整備し郷土の素晴らしさに気づき実感できる生涯学習(リカレント学習)の支援が必要です。

ア 経済・産業振興のためのDX

時代が求める新たな業態への移行や、業種を超えた異業種交流や連携によって新たな価値を生み出す機会創出の手段としてデジタル技術の活用が待たれています。人が行っていた作業や労働を、デジタル技術を活用して代替し労働ストレスの軽減を図る取り組みは今後一層、必要です。働く人にとって快適な職場環境を整備する取り組みによって、新機軸のビジネス・チャンスの創出が生まれます。

農林水産業においてはこれまで蓄積されてきた経験や知恵や知識を、デジタル技術を活用して「見える化」するスマート農林業が加速します。耕作放棄地問題や山林荒廃の課題に対して、担い手不足が指摘されている分野の労働力を補完する代替機能としてデジタル技術を積極的に利活用する取り組みが進みます。これにより、収益性の向上を図ることが可能となるにちがいません。

敬遠されがちだった手間のかかる作業を軽減化し、危険を伴う作業の安全性確保から積極的にデジタル技術が活用され現場へ導入する研究が進みます。後継者確保に悩む人々の課題解決策として、デジタル技術の活用によって代替する流れは止まりません。積極的にDX活用を進め、若い世代の人々に機器のオペレーターとして新しい時代の農業や林業を担ってもらう仕組み構築が急がれます。

各種の自動化によって労働負荷の軽減を図り生産現場における労働災害の低減を目指す安全性確保の向上は避けて通れません。生産性向上と効率化推進を積極的に進める分野と、職人技による貴重な生産を守るための各々のすみ分けを明確にする産業政策の推進が急務です。デジタル技術を活用する商業分野においてもDX技術の活用を進め、ネット販売による広域商圏への商圏拡大が求められます。

* 具体的取組例の提案

- 単純作業はデジタル化で代替し、人の力が必要な業務には安全安心を保証する。
- マッチングアプリによる労働力の相互補填を行う。
- 農業では長年の経験や知識に基づく水や温度管理などをスマート化する。
- 工芸品製作にもデジタル技術を積極的に導入する。

- 職人技術の習得に VR（仮想現実）技術やセンサーを活用する。
- ドローンなどによって労働負荷の軽減と安全の確保を図る。
- ネットワークを活用して商圏拡大を図る。
- ネット上で埋没しないよう、産官学が協力し積極的に PR を行う。
- テレワーク環境を整備して、快適なライフワークバランスを実現する。

イ 観光振興のための DX

伝統行事や日常生活が、沼田市以外の人にとって異日常や非日常であれば沼田の魅力となります。沼田のこれまでの営みを個性として自覚し守ることで、観光文化の振興につながります。これまで関連性がないままバラバラだった沼田の資源をひとつの物語として編むことで観光資源としての魅力と価値を高めることが可能です。自然・歴史・文化等に依拠した沼田の物語が必要です。

沼田の歴史や文化の再評価が市民に周知徹底されその情報の共有化が促進されるよう努めることは、沼田市民の誇りにつながります。沼田の貴重な観光資源を宝物と捉え地域内外の人々に楽しんで「宝探し」をしてもらえる観光資源を整理することは重要です。異業種間交流と連携を促進して新たな沼田の価値が創出できるよう取り組みその上で魅力ある商品開発を図り地域のブランド化を推進する。

デジタル技術によって物理的距離や世代間に生じる精神的距離を埋めることができる仮想現実の VR など、デジタル技術による新しい体験型観光を提供することで、市外からの観光客のみならず、沼田市民も地元をこれまで以上により深く味わい尽くせるようにする。地域資源への理解を広く市民全体で深めることで市民のインフルエンサーとしての活躍も期待できる。

* 具体的取組例の提案

- 年中行事の継承にデジタル技術を活用する。
- 沼田の伝統行事や生活を、デジタル技術を利用して国内外に発信する。
- 僻地を魅力ある選択肢として売り出すなど、地域の特色を持った発信をする。
- 観光資源として、古文書や古地図、民話など歴史的遺産に因む商品を開発する。
- 市外の多様な人との交流により沼田固有の物語を浮き彫りにする。
- 沼田市民が市外の人に、沼田の歴史や文化など魅力や特徴を語れるようにする
「街の語りべ」を創設し必要な水準を満たした人には認定証を交付し認定する。
- 仮想現実の VR や拡張現実の AR などを活用した、体験型観光を行なえるよう観光拠点を整備する。
- 沼田の魅力を一元化して発信すると共に、各種の疑問や質問に応じられるように窓口を設ける。観光で沼田を訪れた人々に「街の語りべ」を派遣する。
- スポーツを取り入れたまちづくりを進めるためにデジタル技術を積極的に取り入れ利用し、健康生活を目指す地域づくりを促進する。
- デジタル技術を活用して、施設入所の高齢者がリモートで地元高校生とリングゴ狩りをするような複合的な体験機会を創出する。

ウ 市民生活向上のための DX

大規模自然災害などの対応にデジタル技術を活用して防災や減災を行い、安全・安心な地域を創り守る整備が求められている。豊かな歴史と文化を継承するためにも、デジタル技術を活用して市民の安全確保を行えるよう BCP の徹底が求められている。限られた時間や資源を人間の創造的活動に配分し、過疎地域の生活を豊かなものとする地域に根差す、地域コミュニティに必要な共助の推進を図る。

暮らしの活動をデジタル技術で補助することで、各自の行動範囲や情報理解が広がり、活動の質が向上することが期待でき、可能な限り行動が制限されることなく、買い物や学びの場に行ける社会を目指す。デジタル技術の活用により子ども達が質の高い教育環境を確保でき、市民生活の向上に資するばかりでなく同時に成人の学びへの契機を促すことが促進される。

* 具体的取組例の提案

- 交通および通信基盤の整備により人の活発な交わりを創出する。
- デジタル技術を有効に利用して、大規模災害に強いまちを創る。
- 一人住まいの助けが必要な人の情報を災害時に備え、予めデジタル技術を利用して整備し、万一の場合に、その情報が活かせるよう平時から準備する。
- デジタル技術を活用して、エンデミック（地域的感染）、エピソード（流行）、パンデミック（世界的流行）それぞれのフェーズに対応した感染症対策を行う。
- 限られた時間や資源を人間の創造的活動に配分するためにデジタル技術を使う。
- デジタル技術を利用したリモートサービスで山間地を便利にする。
- 雪かきなど大きな負担となる作業をデジタル技術で解消する。
- 教育インフラを整備することで都市部との教育格差を低減し、成人の学び直し（リカレント学習）を各種の教育機関と連携・提携し、学びの機会を促進する。
- これまで回覧板などで案内していた情報はスマホなどへ配信する。機器貸出しや地域での利用サポート体制を確保する。
- コミュニティセンターに電波設備を設け、事業所に協力を要請し、誰もが情報を受けられる地域拠点を整備する。
- 野生動物駆除など、ドローン等を利用し生活に密着する安心な暮らしの確保と利便性の向上をはかる。
- デジタル技術先進高校もしくは大学、あるいは専門職大学を設置する。
- 学校での学びを大人も共有し、子どもの実践的学びの場を支援する。

エ 誰一人取り残さない格差解消の DX

「誰一人、取り残さない」決意を市民の共通理解とする。取り残される可能性のある人に対し知識・技術の豊富な得意な人がサポートする。デジタル技術を活用して年齢や性別、人種や国籍、話せる言語、地域性や、障がい起因する人々の困難な状況解消のハードルを下げるお手伝いを推進する。自ら自立を希望する

場合は、使用言語の違いを超えた円滑なコミュニケーションを図るよう配慮する。

*** 具体的取組例の提案**

- 地域移動の足を確保し、自治体内の地域間格差を解消する。
- デジタル技術を活用して、生活環境をユニバーサルデザイン化する。
- 各種の障がいやデジタル技術で補い、健常者との格差のない活発な交流を実現する。
- 各種の言語に対応する通訳を、デジタル技術で可能とする（手話、英語など）。
- 機器貸出しや地域での利用サポート体制を確保する。
- コミュニティセンターに電波設備を設け、事業所に協力を要請し、誰もが偏りなく情報を受けられる地域拠点を整備する。
- 高齢者がデジタル機器利用について、機器の取り扱いを気軽に教えてもらえる場と機会を設ける。